

嶋満神社便り

令和元年七月号（第二十九号）

発行 嶋満神社奉賛会

カミモホトケモ

近頃ブームなもの、それは神社仏閣の「御朱印コレクション」だとか。テレビ番組でも取り上げられ、御朱印とはおよそ縁のなさそうな今どきの売れっ子タレントが各地のお寺や神社を巡り、たくさんのお朱印を集めて披露しています。しかも彼らが神仏に関して結構な知識を持っていることに驚かされます。（失礼！）

まさに「神も仏も」「神様仏様〇〇様」の世界ですね。

あくまで心の安寧を求める仏様と、荒ぶる神を鎮める神社と、一緒くたに考えるのもどうかとも思いますが、信仰のかたちも長い歴史の中で変化するもの、神社にもそれぞれのご利益があるので、固いことは言わず、神社仏閣に足を運び、神様仏様に向かつてこうべを垂れる人が増えるのはよいことと、喜ぶことにしましょう。

でもね、御朱印をネットオークションで売るような当たりな行為はやめましょうね。（画像は宇佐八幡御朱印、オークションとは関係ありません。）



元来わが国民は多神教で、八百万の神を信仰しますが、その究極の発展形が「神仏習合」です。もともと素朴で寛容な我が国の民族性により神様も仏様も同じものとして祭られてきたのでしょうか、やがて八百万のそれぞれの神様はそれぞれの本来の姿である仏様の化身、庶民を救うために身近な神様のかたちであらわれた姿、あるいは仏様になろうと努力している最中の姿、とい

うような捉え方なども出てきました。我が八幡さんは「菩薩」であり、「八幡大菩薩」などと言われることも多いですね。嶋満神社の相殿神として祭られる「市杵嶋姫命」（イチキシマヒメノミコト）は同じ女性であることから「弁財天」の化身ともいわれませんが、「美人だから」などとと言われることもあり、もう、こうなるとその根拠もあまりよくわかりません。

一つには仏教をもとに国造りを進めたい時の政権の、我が国に古くからある神への信仰を利用したいとの思惑が働いていたのではないかということも言えるでしょう。

大仏鑄造の技術を持つ九州宇佐八幡の氏子集団を大和政権が優遇し、八幡神が地方の神から一躍メジャーデビューを果たしたことも無関係ではありません。



（江ノ島神社の弁財天）

その後の八幡さんが、様々な過程を経て「我が国で一番多い神社」となっていた経緯は本誌第十五号に記したとおりです。いずれにしても仏教伝来以降、千年以上も「カミモホトケモ」ごちゃまぜに信仰してきたのは我ら日本人のいい意味での「いい加減さ」だと言えるかと、少し前に「歴史秘話ヒストリア」でも井上あさひさんが述べていましたよね。神仏習合についてはなかなか複雑でとらえどころのないお話なので、このあたりにしたいと思います。

都合により発行間隔が伸びましたことをお詫びいたします。

八月には例年通り例祭もございまして、皆様是非お手伝い、ご参列をお願いいたします。